

## 目 標 と 現 実

田中茂喜<sup>†</sup> (長野県獣医師会・アルファ動物病院院長)

小学校の頃、私は捨て犬捨て猫をよく拾っては里親探しに奔走するよくいる少年であった。

知識もなく気合だけが空回りする、ごく一般の小学生だったと記憶している。

それが成長して大学に入学したが、目標は小学生から変わらず「どんな動物でも診ることができる獣医師」であった。しかし、研究室に入り、まず変化が起こった。世話を経験する事であっさりとなりの大好きな学生になっていた。その後師匠と先輩の下で勉強していつの間にか心臓大好きな学生となり、かなり偏った状況になった。

代診時代も興味はコロコロと変遷し、エキゾチック大好き→行動学大好き→皮膚科大好き→臨床病理大好き…と。そして開業後も興味は広がる一方である。ちなみに開業時の目標は「大学に近いレベルの仕事をするホームドクター」というものであった。ホームドクターとしての仕事をしつつまずは腫瘍学に強い興味を湧き、その後興味は循環器に戻り、神経、麻酔、眼科へと続いた。専門的な知識及び技術を学びたくても身体は一つしかなく、日常の仕事に奔走して一日が過ぎていくジレンマを感じている。欲しい機材も必要に応じて具体的に、内視鏡が欲しいと思えば、次に眼底カメラが欲しい、さらにCO<sub>2</sub>レーザーが欲しいというように、欲しい機材は増える一方なのに病院の成長は追いつかない、お金が足りないという状況で、それらを我慢するジレンマもある。

その中で特別欲しかったのがCTであった。開業した当時は断層診断できる施設が近所には無く、東京の検査センターに紹介するしかなかった。X線読影だけでは納得出来ない症例や頭蓋内疾患、後駆麻痺、鼻腔内疾患、胸腔内腫瘍・腹腔内腫瘍等様々あり、必要性はかなり大きかったと記憶している。同じ地域で開業している先生方や勉強会で一緒している先生方も同じジレンマを抱えていて、「いつかは地域に一台CT欲しいね」と話していた。開業6年目で病院も狭くなり引越しも検討している時にCTの導入が頭をよぎった。ちょうど上記ジレンマがピークに達している時でもあった。しかしCTを入

れるとなると、ホームドクターとしての仕事に加え、CT等の仕事が増えた時に、人的、時間的な余裕があるのか不安であった（現在も長野市内に夜間救急病院はない）。さらにまだ返済完了していない借金も考えると資金面での問題も壁となった。しかし、CT導入によって得られる「今まで解らなくて諦めていたものが解るようになる」という大きなメリットに目がくらみ、近隣の先生方と夜な夜な相談をしていたところ、「院内CTセンター構想」に賛同していただき、普通の開業動物病院を近隣開業動物病院が支援するという異例の「支援病院制度」を考案、2年ほど前にCT導入となった。この制度により近隣の先生も自分の施設の延長としてCTを使っただけで、一軒の動物病院で腐らずに活躍してくれている。私もかゆい所に手が届く状況になり、このような先生方のおかげで長年感じていたジレンマが一つ解消された。

しかし、エキゾチックアニマルに関しては予約制で少数のみを診察するようになり、牛に関しては牛井屋での付き合いがメインとなり、「ホームドクター」に関しては夜中までフォロー出来ないという当時の目標達成ができずにいる。これが現実かなとCTコンソールの前で夜な夜な画像を整理しつつ、理想と目標と現実が一致するための計画を現在も検討している。皆様は目標と現実一致しているだろうか。

## 田 中 茂 喜

## — 略 歴 —

- 1996年 日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）卒業
- 1996年～2003年 東京都下、東京都内、埼玉県にて代診
- 2003年 長野県にてアルファ動物病院開業



<sup>†</sup> 連絡責任者：田中茂喜（アルファ動物病院）